

厚生労働行政推進調査事業費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
分担研究報告書

肝炎医療コーディネーター（肝 Co）の現状と今後の課題

分担研究者：是永匡紹 所属先 国立研究法人国立国際医療研究センター 肝炎情報センター

研究要旨

新規の肝炎ウイルス陽性者は減少しつつあり、今後は専門医のみならず非専門医を含めたメディカルスタッフ、地方公共団体の肝炎ウイルス対策部署・保健所、健診医療機関や保険者等にも肝炎ウイルス検査受検促進、陽性者を受診、受療へ導くことの重要性を認知させることが急務であり、その対策として多職種による肝炎医療コーディネーター（肝 Co）養成が全国で勧められている。本研究では「新たな手法を用いた肝炎ウイルス検査受検率・陽性者受診率の向上に資する研究（是永班）」と連携し、1. コロナ禍による肝臓病教室（院内・患者向け）は減少している一方で、紙上・web・市民公開講座の活用し活動が維持されていること 2. 拠点病院においても肝 Co 配置に不均衡が顕著であること 3. 肝炎ウイルス陽性者の非専門科での肝 Co 養成が急務であること 4 肝 Co 養成講習内容に大きな差があること が明らかとなった。今後は肝 Co 活動維持のみならず、知識の均てん化を課題として、養成講習内容の統一化、web を応用とした継続研修の回数を増加させ学習機会を与えることが必要であり、更に拠点病院においては、率先して非専門医科に肝 Co を配置させ院内肝炎ウイルス陽性者対策の効率化を図り、専門医療機関やクリニックへ展開することが望まれると考えられた

A. 研究目的

2016年に改正された肝炎対策基本指針には治療薬の進歩に伴い「肝硬変・肝がんへの移行者を減らすこと」を目標とすることが明記され、効率的に非受検者を対象に肝炎ウイルス検査を受検させること、広いあげた陽性者を確実に専門医療機関へ受診させることがより急務である。その対策として新規の肝炎ウイルス陽性者は減少しつつあり、今後は専門医のみならず非専門医を含めたメディカルスタッフ、地方公共団体の肝炎ウイルス対策部署・保健所、健診医療機関や保険者等にも肝炎ウイルス検査受検促進、陽性者を受診、受療へ導くことの重要性を認知させることが急務であり、その対策として多職種による肝炎医療コーディネーター（肝 Co）養成が全国で勧められている。本研究では「新たな手法を用いた肝炎ウイルス検査受検率・陽性者受診率の向上に資する研究（是永班）」と連携し、肝疾患診療連携拠点病院（拠点病院）の肝 Co 養成者数やその配置状況を明らかにし、拠点病院ですら肝 Co 配置に偏在することを報告（肝臓 2021）した。更に解析を行い以下の検討を行った

B. 研究方法

- ・肝炎情報センター・新規手法（是永）班との連携研究 1～拠点病院内活動～⇒拠点病院調査と肝臓相談支援システムへの投稿から肝臓病教室の開催状況を解析した
- ・肝炎情報センター・新規手法（是永）班との連携研究 2 ～拠点病院内の肝 Co 配置と非専門医科の有用性～⇒ 是永班分担研究者施設に調査を行った
- ・肝炎情報センター・新規手法（是永）班との連携研究 3 ～拠点病院以外の陽性者対策と肝 Co 養成～⇒是永班分担研究者施設に調査を行った
- ・肝炎情報センター・新規手法（是永）班との連携研究 4 ～肝 Co 養成講習会均てん化状況～⇒web 上から各都道府県の肝 Co 養成講習プログラム内容を解析した

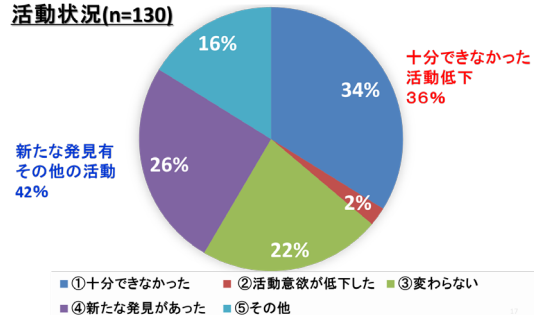
C. 研究結果

- ・肝炎情報センター・新規手法（是永）班との連携研究成果 1
患者向けの「肝臓病教室」を開催していない拠点病院はコロナ禍前より15施設存在しており、令和2年度はほぼ倍増したが、令和3年度は改善傾向を示した。開催はwebを利用したも

に対し、新規発見(26%)、変わらない(22%)と大きく3つに分かれ、活動低下と回答したのは2%に留まり、web開催準備、web視聴等にて、様々な知見を得た推測された(下図)。

国立研究開発法人国立国際医療研究センター 肝炎・免疫研究センター 肝炎情報センター主催
令和3年度都道府県肝炎診療連携拠点病院 肝炎相談・支援センター向け研修会

活動状況(n=130)



その一方で「肝臓病教室」と「市民公開講座」の境目がなくなり、肝臓病教室を開催しない施設の多くが市民公開講座をweb化し肝臓病教室と開催している。更に千葉県のように市民公開講座を肝Co継続研修会として開催し、広く肝Coに最新知識を得るchanceを増やしている。今後は、患者さんを含め肝Coとなって頂き、ハイブリッドを中心に継続研修回数を増やしていくことが一考される

拠点病院には多くの肝Coが養成されており、実際、肝炎情報主催会議に参加される肝炎相談センター関係者の90%は肝Coを取得済みとなった(下図)

開催年度	会場	参加施設	参加人数	肝Co	肝Co率	注意
2016	市川	56	113	40	35%	70施設 2日間
2017	浜松町	54	120	44	37%	70施設 2日間
2018	浜松町	54	109	63	58%	71施設 2日間
2019	中止	56	102	74	73%	参考
2020	web(オンデマンド配信)	60	203	135	67%	71施設
2021	新橋(ハイブリッド)	50	136	97	71%	71施設 4時間
2022	新橋(ハイブリッド)	51	118	105	89%	72施設 4時間

その一方で、拠点病院であっても肝Co配置・養成数に差があり、非専門医科には殆ど存在されておらず、専門医療機関に十分にその活動が伝わっているとは言えない現状といえる。是永班では、非専門医科や臨床検査技師を肝Coを養成することでその有用性を報告(臨床眼科 2023 肝臓 2022 2023)しており、「肝Coをどこに配置して、どのように活

用すべき」を考えて養成すべきと考えられた。更に、都道府県主導で養成される肝Coはその講義内容からは、その知識は一定とはいえない。肝炎対策基本指針にも記載され「肝炎医療の均てん化」には、「肝Coの知識の均てん化」も必要不可欠で、島根県のように診療報酬可するためには、養成講習にはシラバス等を作成し、最低教えるべき内容を示すことが急務で、またCO活動内容を細かく示すことも必要である(下図案)

政策 活動内容をもう少し詳細・項目別に

* 肝炎医療に係る情報、知識等の説明、肝炎ウイルス検査の受検案内・肝炎ウイルス検査陽性者への受診勧奨、専門医療機関の紹介・抗ウイルス治療後も含めた継続受診の重要性の説明、肝炎患者やその家族への生活面での助言、服薬や栄養の指導、定期検査や医療費の助成、身体障害者手帳等の制度の説明や行政窓口の案内、C型肝炎肝炎訴訟やB型肝炎肝炎訴訟に関する窓口案内、仕事や育児と治療の両立支援相談に関する窓口案内、医療機関職員向けの勉強会の開催、拠点病院などで実施する肝臓病教室や患者サロンなどへの参加、地域や職場における啓発行事への参加、啓発行事の周知

他のヒト(患者)に勧めた・説明した ことだけ肝Co活動なのだろうか?
例えばですが、自分自身の行動変容は??

- ・感染症における抗体・抗原・PCR検査に興味がわくようになった(理解できるようになった)
- ・抗体・抗原・PCR検査をテレビで聞くと自然に観るようになった
- ・傷をすするとすぐに消毒するようになった(感染対策の意味はわかるようになった)
- ・他疾患にも興味をもてるようになった(医学番組を見るようになった)
- ・両立支援コーディネーターになった
- ・継続研修会や市民講座に参加した
- ・肝炎患に関わることをネットで検索した
- ・薬剤師: 再活性化の可能性ある薬を注意する様になった
感染症の薬を説明する際に周囲に配慮した
- ・臨床検査技師: 肝炎ウイルス検査もパニック値のひとつになればよいと思った

E. 結論

コロナ禍で院内肝臓病教室の開催に影響を出て再開も難しい状況である。

その一方で、肝Co養成は継続され市民公開講座を肝臓病教室・Co継続研修としてその開催を広く周知が始まっている

肝Co養成数だけ増加させる時期はすぎ、①肝炎ウイルス対策が必要な非専門医科への肝Co養成者を増加させる②養成講習で最低講義をしないといけない内容の決定など、「肝Coの均てん化」に向けた方策を検討することが必要である。

F. 健康危険情報

無

G. 研究発表(本件に関わることのみ)

発表論文

1. 大原正嗣、小川浩司、長谷川智子、新明康弘、坂本直哉、○是永匡紹 眼科外来への肝炎医療コーディネーターの配置による肝炎ウイルス陽性者対策の推進 肝臓 in press
2. 戸所大輔、戸島洋貴、柿崎 暁、○是永匡紹、秋山英雄 肝炎医療コーディネーター導入による肝炎ウイルス陽性者対応の適正化 3. 井

上 貴子, 加藤 正美, 浅田 一史, 矢澤 隆宏, 静間 祐一郎, 近藤 康史, 宮野 貴彦, 安江 一紀, 伊藤 範明, 青木 恒宏, 三輪 和弘, 後藤 陽一, 中原 幹雄, 落合 慶行, 相武 幸樹, 内堀 典保, ○是永匡紹 愛知県歯科医師会が提案する肝炎医療コーディネーター養成講習会の新たな役割 肝臓 63(7) 346-349. 2022.

4. 井上 貴子, 加藤 正美, 浅田 一史, 根来 武史, 竹内 克豊, 河合 正, 梶村 豊彦, ○是永匡紹, 内堀 典保歯科の特性に着目した愛知県歯科医師会主導での新しい肝炎対策とその成果 肝臓 62(9) 588-589. 2021.

5. 榎本 大、日高 勲、井上 泰輔、磯田 広史、井出 達也、荒生 祥尚、内田 義人、井上 貴子、池上 正、柿崎 暁、瀬戸山 博子、島上 哲朗、小川 浩司、末次 淳、井上 淳、遠藤 美月、永田 賢治、○是永匡紹, 肝疾患診療連携拠点病院における肝炎医療コーディネーターの現状 肝臓 62(2) :96-98. 2021

啓発活動 (肝 Co 向け講習会)

1. 是永匡紹 令和 2. 3. 4 年度千葉県肝炎医療コーディネーター養成・継続研修会 2020 年 12 月 24 日 (live 配信) 2021 年 12 月 23 日 (live 配信) 2022 年 12 月 21 日 (ハイブリッド配信) 千葉県主催

2. 是永匡紹 令和 4 年度 東京都肝炎 (医療・対策) コーディネーター養成研修会 (期間限定配信) 2023 年 2 月 20 日~3 月 3 日 東京都主催

3. 是永 匡紹 「ウイルス肝炎撲滅に何が必要か? ~肝炎医療コーディネーターの役割~」 令和 4 年度福島県肝炎医療コーディネータースキルアップ研修会 主催 福島県 2022 年 10 月 15 日

4. 是永 匡紹 「私、肝炎医療コーディネーターになりました・・・で?」 令和 4 年度第 1 回新潟県肝炎医療コーディネーター養成研修会 主催 新潟県/新潟大学病院 2022 年 7 月 28 日

5. 是永 匡紹 「これからの肝炎総合対策とは? ~肝炎医療コーディネーターに知って欲しいこと~」 令和 4 年度徳島県肝炎医療コーディネーター養成講習会 主催 徳島県 2022 年 4 月 8 日

6. 是永 匡紹 「非受診肝炎ウイルス陽性者はどこにいるの? ~肝 Co に知って欲しい非専門医との連携~」 令和 3 年度茨城県肝炎医療コーディネーターステップアップセミナー 主催 茨城県 2022 年 3 月 2 日

7 是永匡紹 令和 3 年度 「知っておきたい肝臓病の最新知識」 2022 年 3 月 宮崎県市民公開講座 日本肝臓学会主催

8. 是永匡紹 令和 2, 3 年度 東京都職域向けウイルス性肝炎研修会 (期間限定配信) 2021 年 2 月 2022 年 2 月 東京都主催

9. 是永匡紹 令和 4 年度 日本肝臓学会主催 関東地区市民公開講座 (責任者) 2022 年 7 月 31 日

10. 是永匡紹 令和 3 年度 2021 年度日本肝臓学会教育講演会 (単独開催) 「肝炎総合対策」 日本肝臓学会主催 2021 年 8 月 17 日

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし